

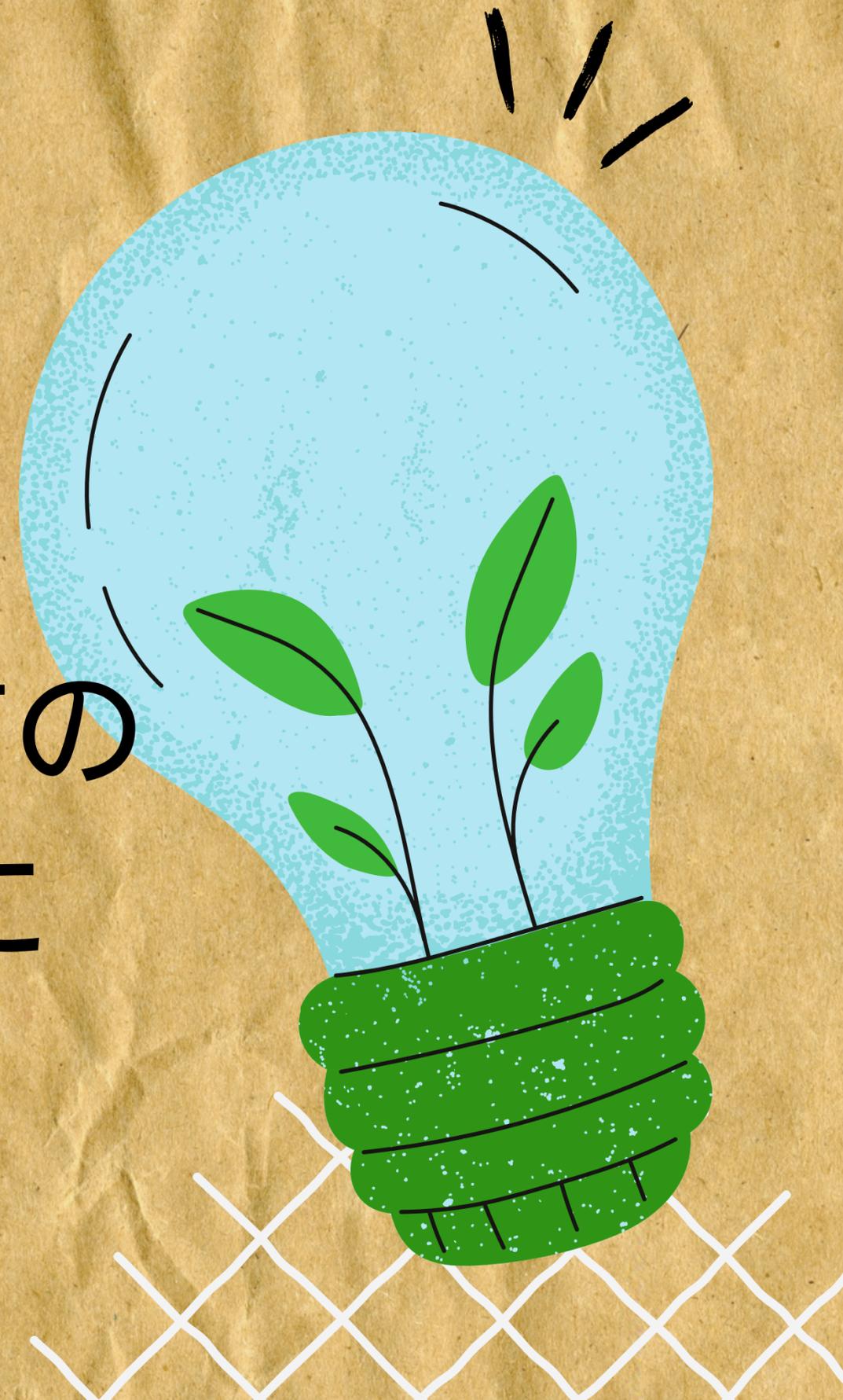


環境モデル都市飯田市の
エネルギーについて
一緒に考えよう！

飯田女子高校2年
井上茜 奥村未来 林陽茉理

活動の目的

飯田市に住む人達に 飯田市の
エネルギーについて一緒に
考えてもらおう！！



活動したこと

取材

- ・ 飯田市の環境やエネルギーに関する活動を行っている団体への取材

アンケート

- 〈高校生対象〉
飯田市の取り組みが市民には伝わっていない現状を調査
そのギャップの原因を追求

科学工作

- 〈小学生対象〉
・ 環境について知ってもらうためのクイズの実施
・ 太陽光について興味を持ってもらうためのソーラパネルカー作り

ワークショップ

- 〈中学生から大人までの幅広い世代を対象〉
・ 飯田市の未来を一緒に考えるワークショップの実施
・ ワークショップの内容を市長さんに提言！

取材した施設・団体

- おひさま進歩エネルギー株式会社
- 環境わくわく体験スクールの湯澤さん
- 南信バイオマス株式会社
- メガソーラーいいだ
- 飯田市役所
- おもしろ科学工房



おひさま進歩エネルギー株式会社

取材をした理由...

飯田市が力を入れている太陽光発電に関する事業を行っているから

行なっていること

- エネルギーに関する勉強会や環境学習
- 太陽光パネルの利用者を増やすための事業



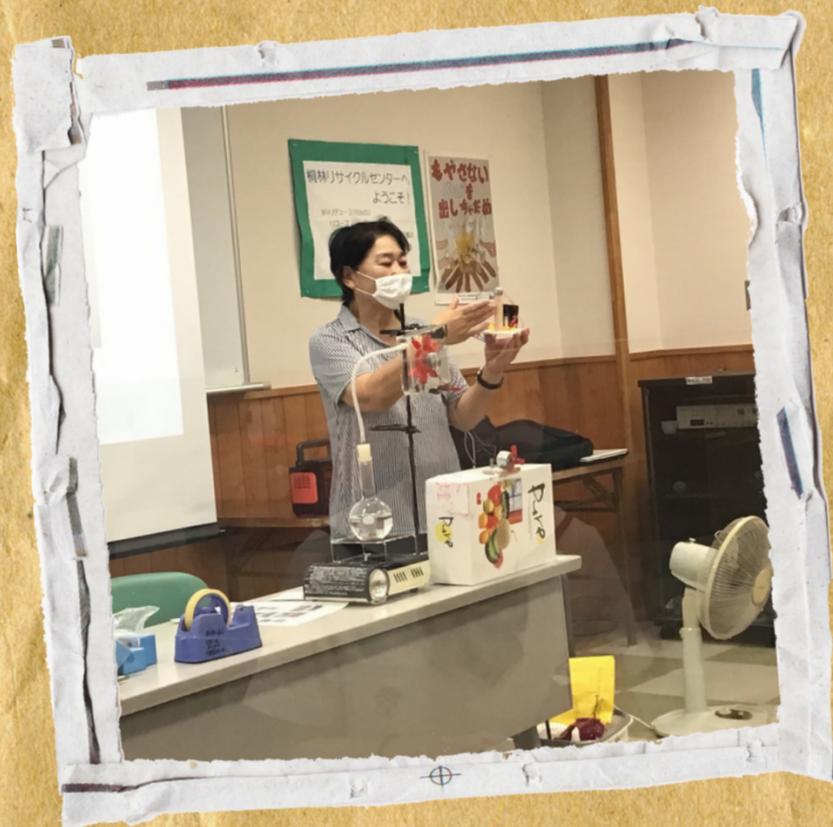
わくわく体験スクールの湯澤さん

取材をした理由...

- 環境のことをわかりやすく伝えるための工夫を学ぶため
- ソーラーパネルカー作りについて学ぶため

湯澤さんが課題だと感じていること

- 伝える活動が広がらない
- 環境のことを学んでも実際に行動できる人は少ない
- 後継者がいないこと



わくわく体験スクールの湯澤さん

取材を通して

環境やエネルギーについての問題について

「学ぶ」、「知る」で終わらせるのではなく、

行動に移さなければいけないと感じた



アンケート

環境モデル都市
環境文化都市

飯田市役所



飯田市の取り組みを知らないまま生活してきた

市民

ギャップ

(環境問題・エネルギー問題に対する熱量の違い)



調査すること

- **現状を知る**

高校生がどれほど飯田市が目標とする都市像に理解があるのか
→行政と市民の間のギャップを測る

- **どうして市民と行政の間にギャップが生まれたのか**

行政と市民の間に生まれた環境問題・エネルギー問題に対する熱量の違い(ギャップ)
がどうして生まれてしまったのかを追求
→六つの仮説を立てる

アンケートの項目



現状を知る

③ 飯田市は環境に関する都市宣言を定めたり、国等からさまざまな都市・地域として選定を受けたりしています。以下のなかで聞いたことがあるものにチェックをしてください。(複数回答可)

④ 飯田市が環境やエネルギーに対して今までに行なった取り組みとして聞いたことがあるものにチェックをしてください。(複数回答可)

どうして行政と市民の間にギャップが生まれたのか

仮説①

市民じゃない私たちが知らないだけで市民には伝わっている

仮説②

行政に対する不信感がある

仮説③

市で行なわれているエネルギー問題・環境問題への取り組みが、「当たり前のこと」になっている

仮説④

飯田市に愛着がない

仮説⑤

もともと環境問題やエネルギー問題に対する関心が薄い

仮説⑥

モラルが低い

⑤ 日常生活の中で、環境やエネルギーに対して気をつけていることはありますか。当てはまるものにチェックをしてください。(複数回答可)

⑥ 普段の生活意識や行動について近いものをチェックしてください。(複数回答可)

⑦ 飯田市に対して愛着はありますか。

⑧ 環境問題やエネルギー問題に対して興味・関心はありますか。



校内 アンケート

調査概要

- 調査対象
飯田女子高等学校に在籍する1年生から3年生
- 調査方法
インターネット(Microsoft Formsにて)
- サンプル数
305人
- 実査期間
2023年10月27日(金)~11月2日(木)

飯田市のエネルギー問題・環境問題に関する

意識調査



ご協力よろしくお願いいたします

内容 エネルギーに関する意識調査(約2分)
実施期間 10月27日(金)~11月2日(木)
対象 飯田女子高等学校に在籍する生徒

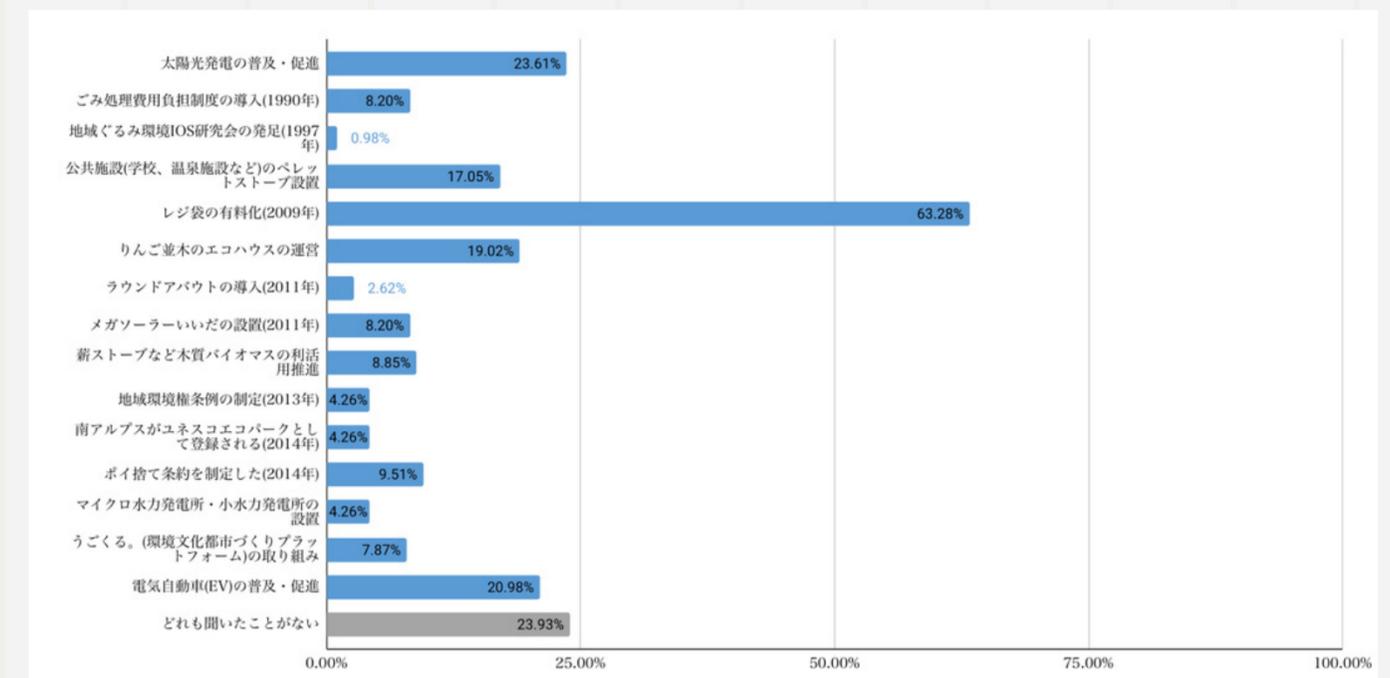
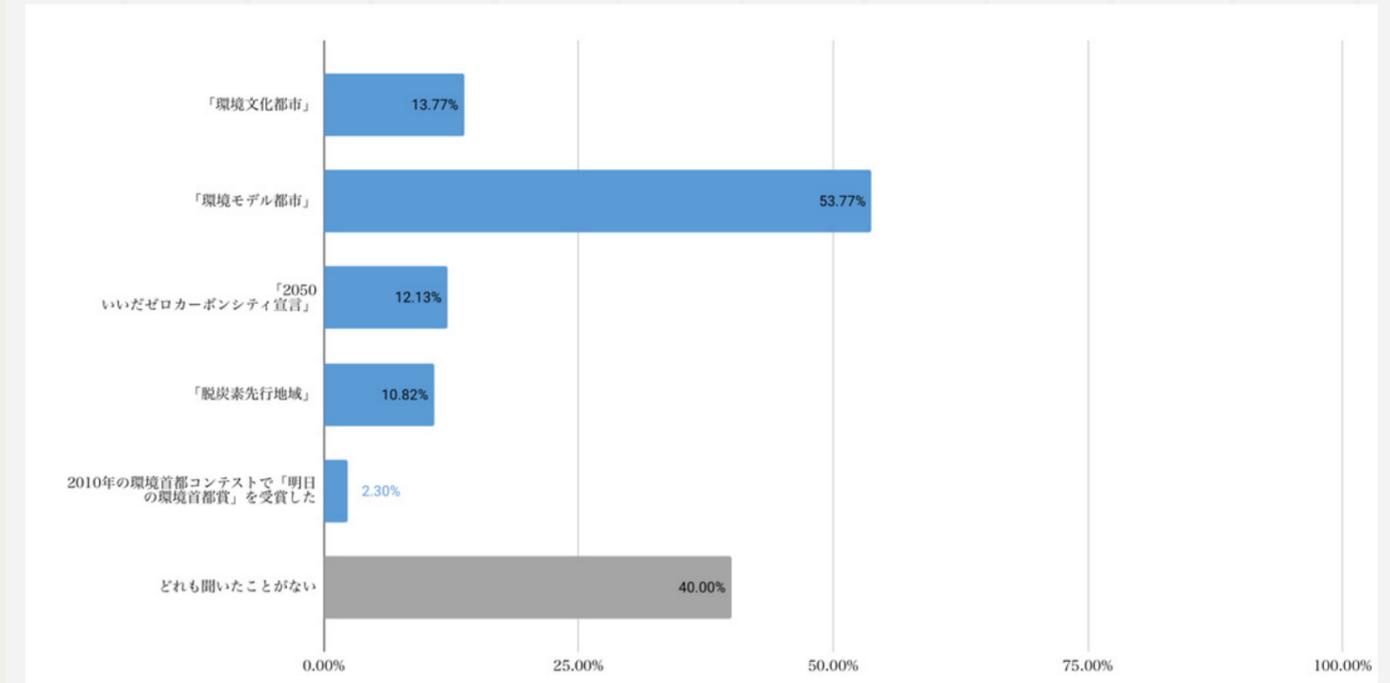


iijo IEA girl's

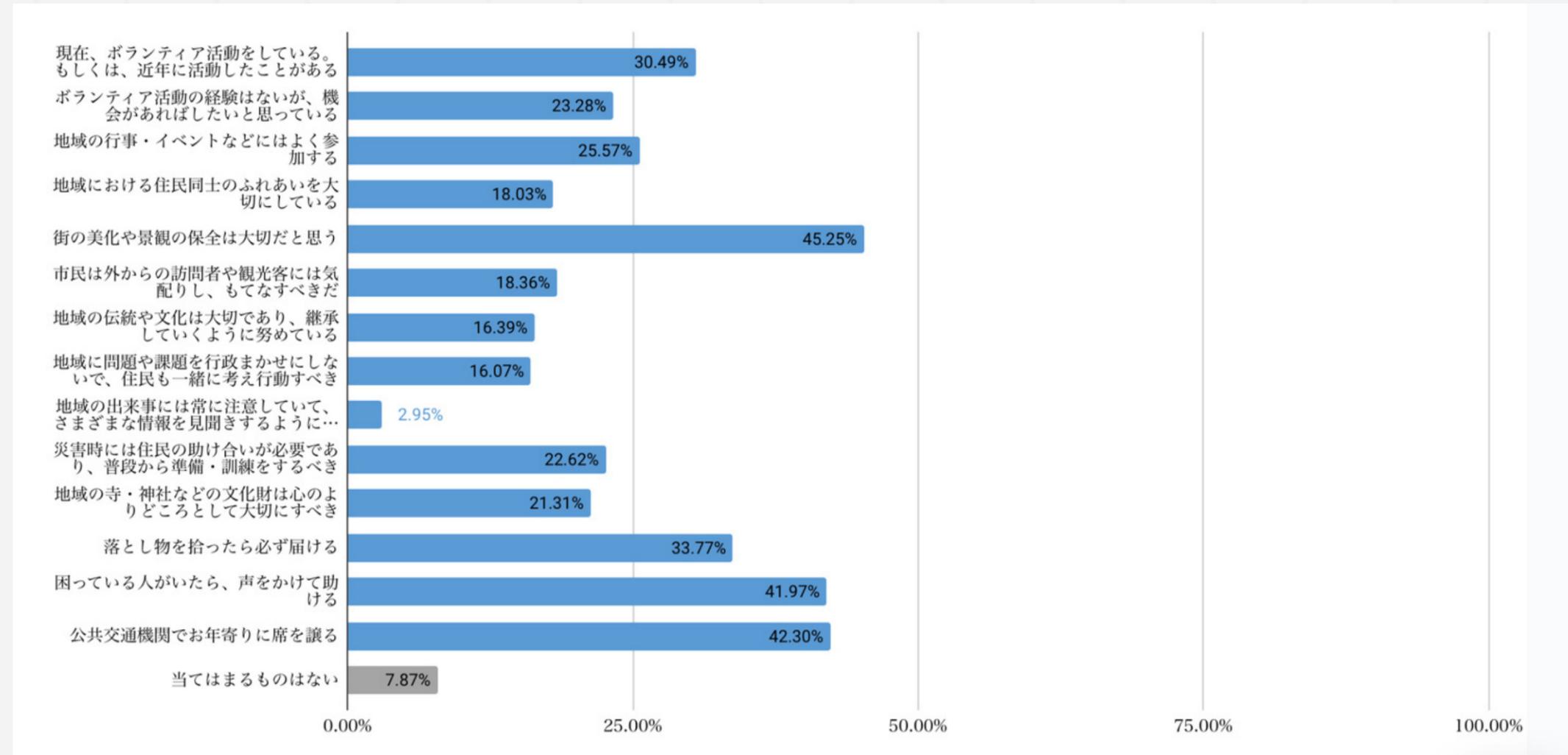
現状を知る

- 「環境モデル都市」が最も聞かれたことがある
- 「環境モデル都市」以外の言葉はほとんど回答率が10%にとどまっておろ、あまり定着していないといえる

- 施設があるもの（「太陽光発電の普及・促進」、「公共施設（学校、温泉施設など）のペレットストーブ設置」、「りんご並木のエコハウスの運営」、「電気自動車（EV）の普及・促進」）の回答率は20%近くある



どうして行政と市民の間にギャップが生まれたのか



「地域の出来事には常に注意していて、さまざまな情報を見聞きしている」の回答率が顕著に低い
→自分の好きな情報を好きなだけ得られる現代だからこそ、このような結果になったのではないか

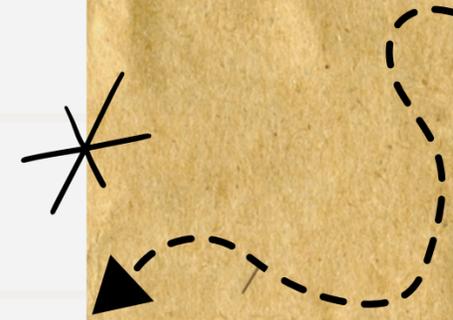
考察

現状を知る

- 「環境モデル都市」はよく知られている
- 施設のある取り組み（太陽光発電所など）の認知度は高い傾向にある
- 上記以外の宣言・取り組み等はあまり知られていない

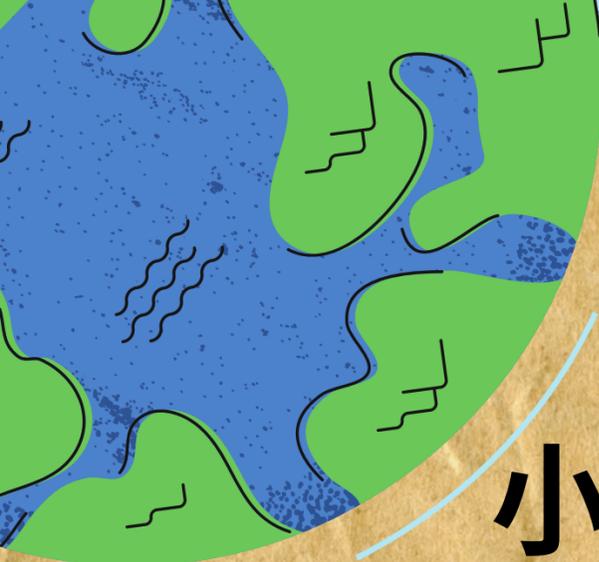
どうして行政と市民の間にギャップが生まれたのか

- もともと環境問題やエネルギー問題に興味のある人は、飯田市の取り組みについても知っているまたは自ら行動している傾向がある
- 情報を享受できるツールがたくさんある現代だからこそ、情報を上手く伝達させることが難しくなっている



アンケートの詳細い
分析はこちら





科学工作の目的

対象者:小学生

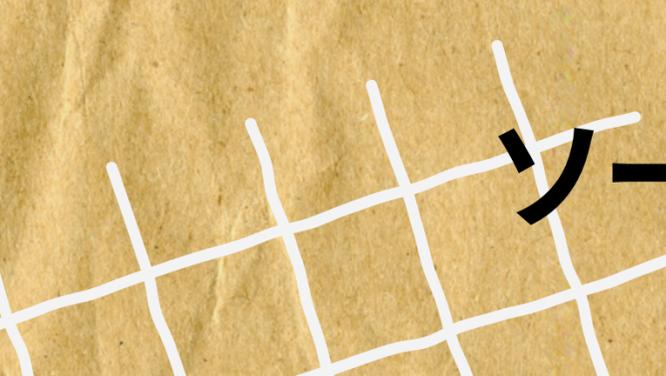
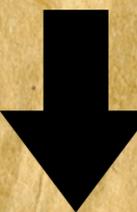
小学生にも飯田市のエネルギーについての
取り組みを知ってもらいたい



飯田市は太陽光発電に力を入れている



小学生にも楽しめる「科学工作」を通して伝える

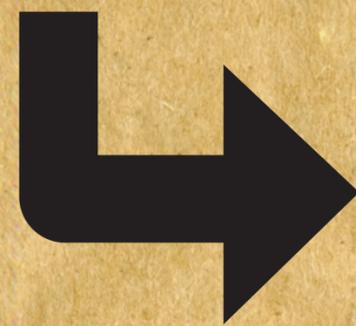


ソーラーパネルカーでレースを企画



イベントの内容

- 環境に関するクイズ
- ソーラーパネルカー作り

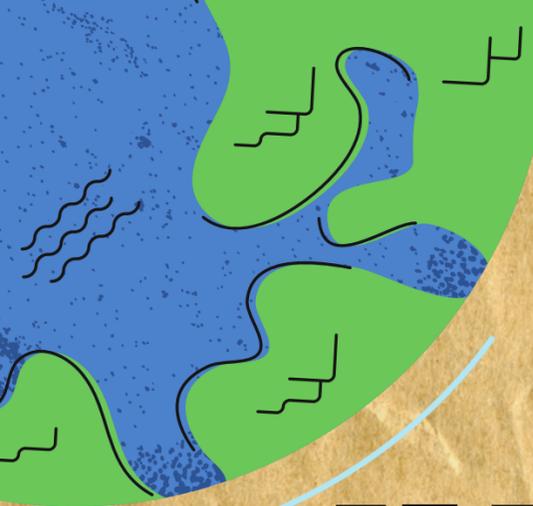


楽しみながら学べる！

記憶に残りやすい！

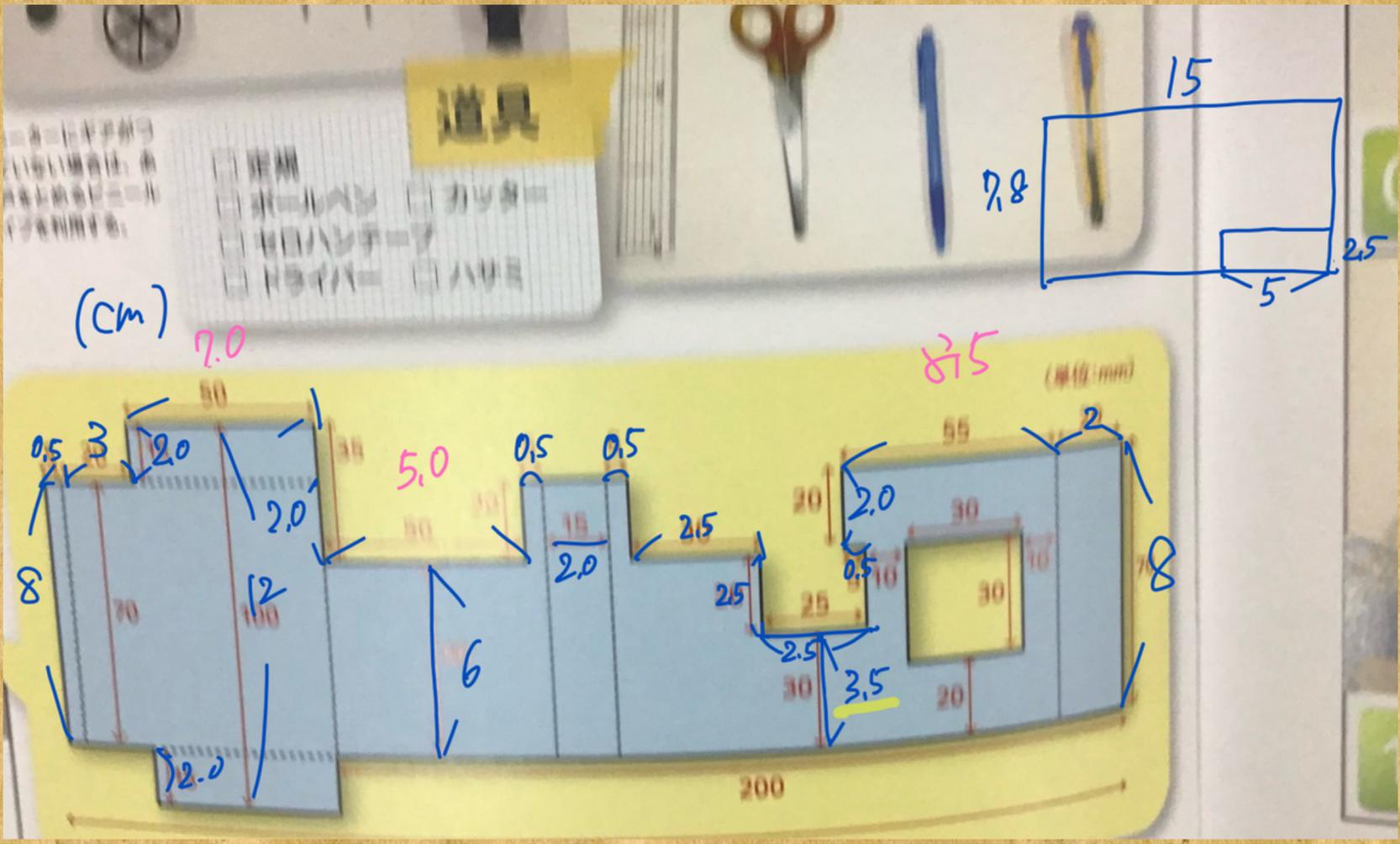
興味を持ってもらえる！





困ったこと・大変だったこと

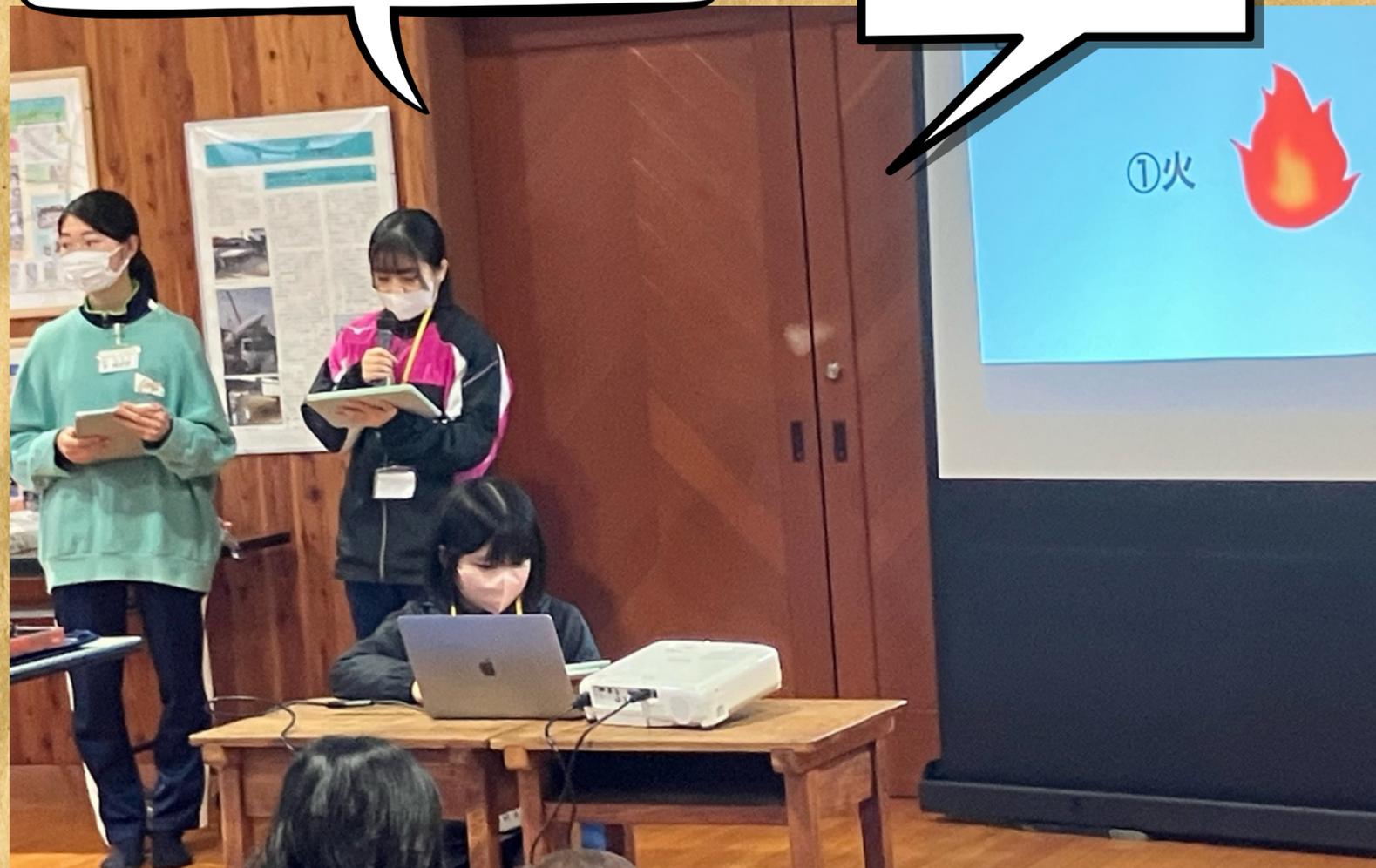
設計図を自分で作らなければいけない



① 太陽光発電や地球温暖化についての説明・クイズ

わかりやすく！

楽しく！



クイズ2

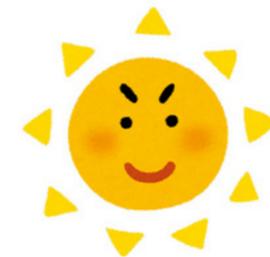
でんきを1ばん多くつくっているものは
なんでしょう？



①火



②水



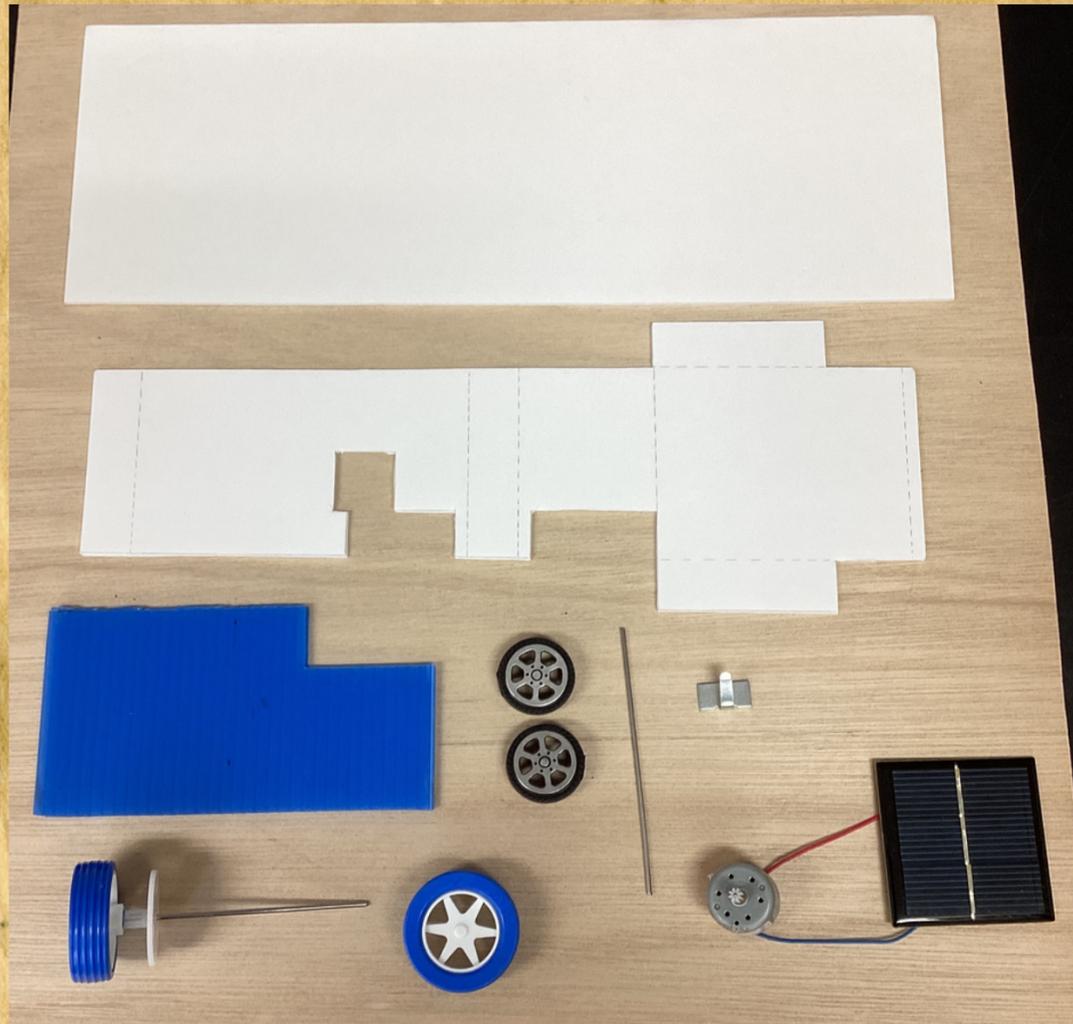
③たいよう



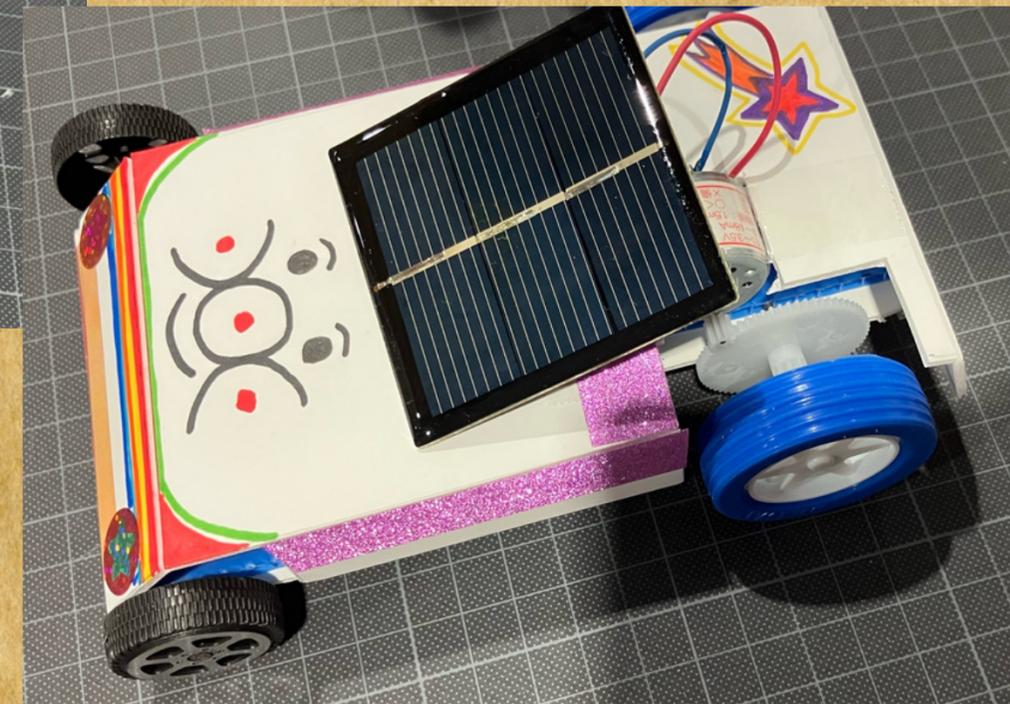
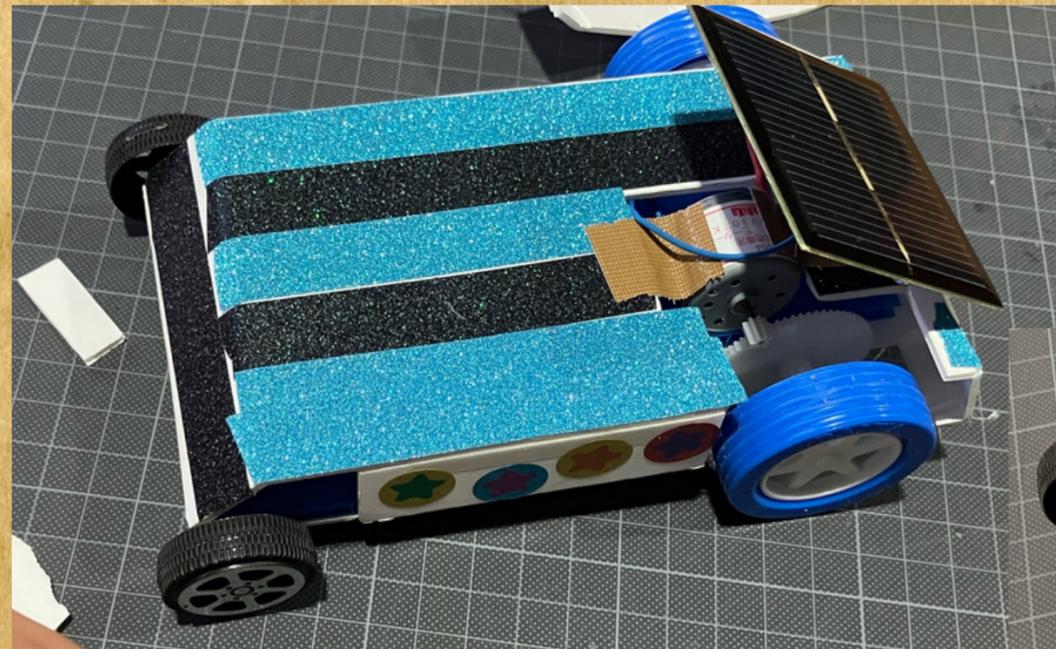
④かぜ

実際に行ったクイズ

②ソーラーパネルカー作り



手作りキット



デコレーションをして
オリジナルソーラーパネルカーに！

③作ったソーラーパネルカーでレース



ワークショップ

「環境文化都市いいだの未来を一緒に考えよう」

★目的★

- ① 幅広い世代の方に飯田市のエネルギーについて知ってもらおう
- ② 参加者と一緒に飯田市の未来を考える



準備

- 飯田市の団体への取材
- 南信州環境メッセへの応募
- 飯田市役所 ゼロカーボンシティー推進課からコラボの依頼
→ゼロカーボンシティー推進課の方との打ち合わせ
- 「うごくる」での話し合い
(うごくる...飯田市が行う環境について語り合う場)

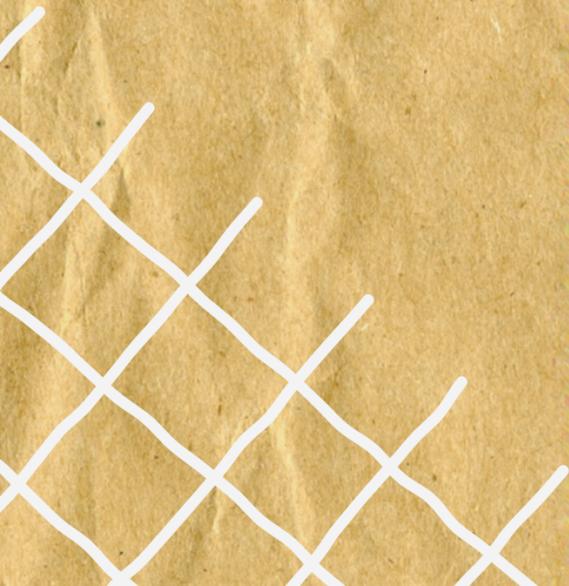
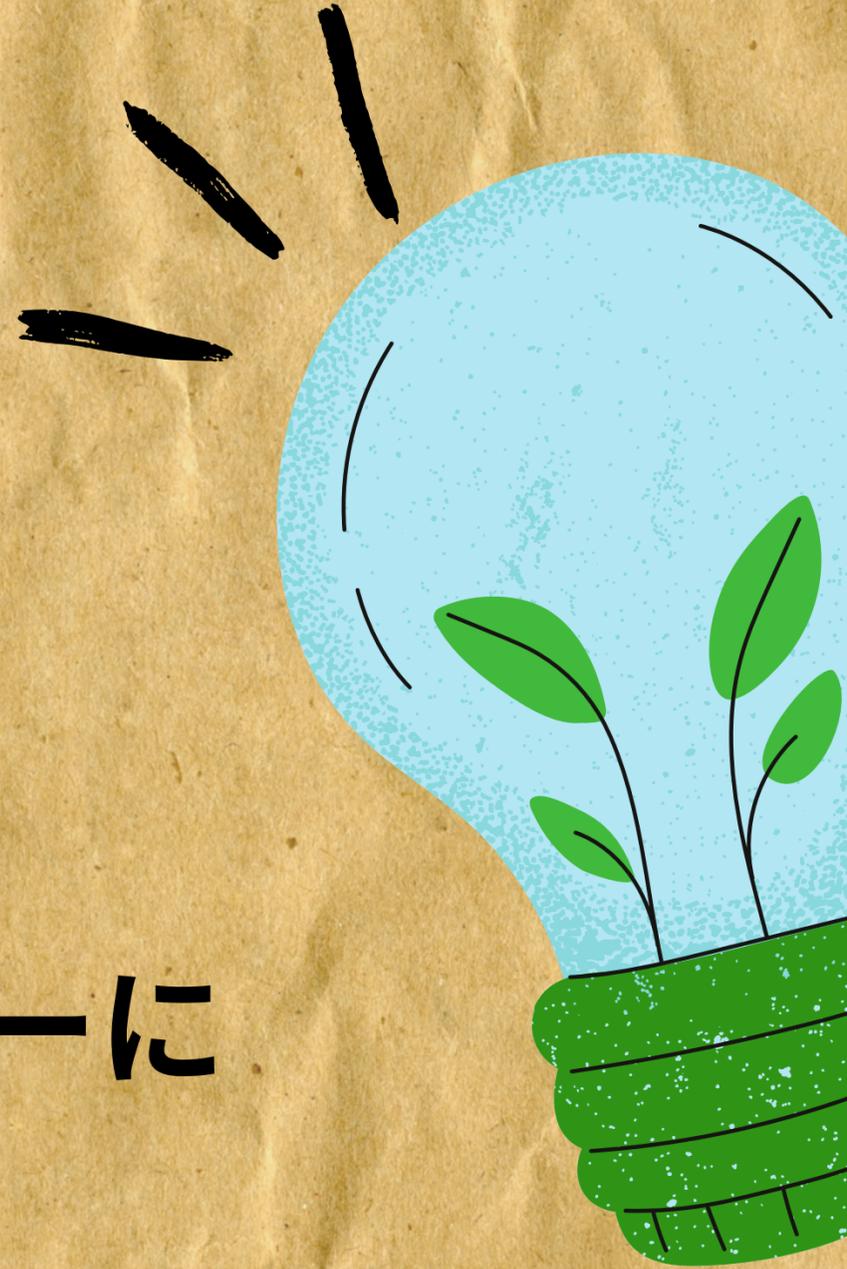
飯田市役所、飯田信用金庫、南信州広域連合、市議会議員の方にアドバイスをいただいた



本番

飯田市の活動紹介

- 飯田市の団体 行政のエネルギーに関する取り組み
- 団体 行政が抱えている課題について



本番

グループごとの話し合い

～テーマ～

★環境に関することで
知っていること

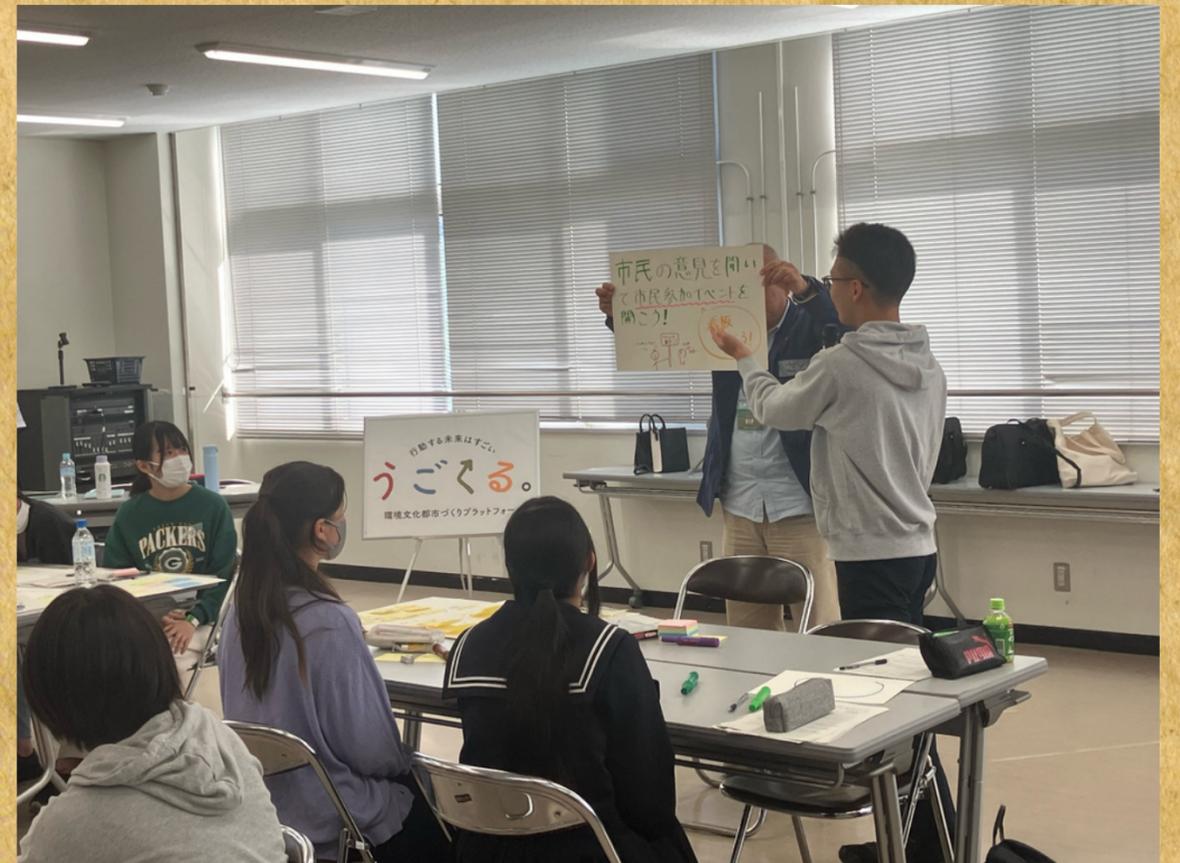
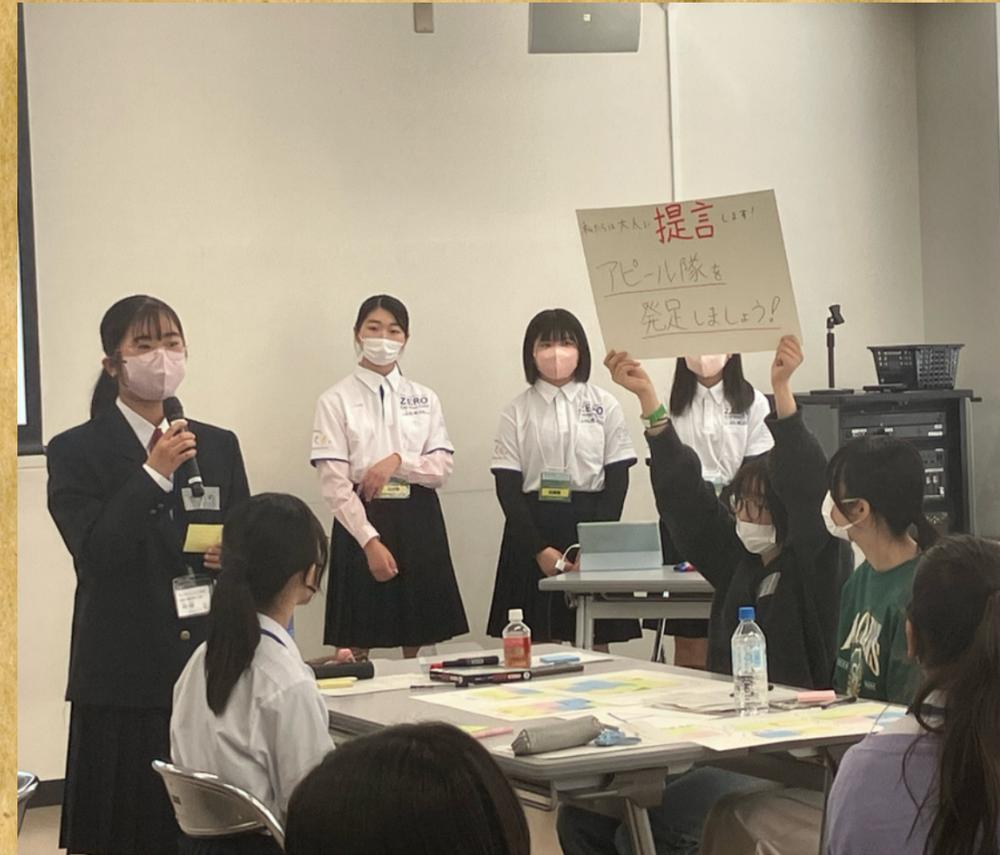
★市民の皆さんに飯田市の
活動が伝わらないのはどうして？



本番

提言の発表！

- アピール隊を発足しよう！
- 市民参加型のイベントを
ひらこう！！
- give and takeの学びを！



市長さんへ提言

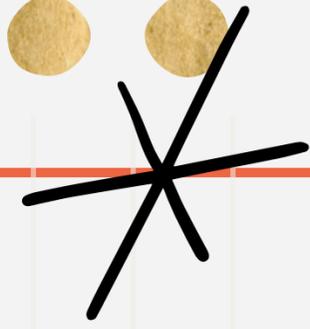
ワークショップの報告と提言

★市長からの言葉★

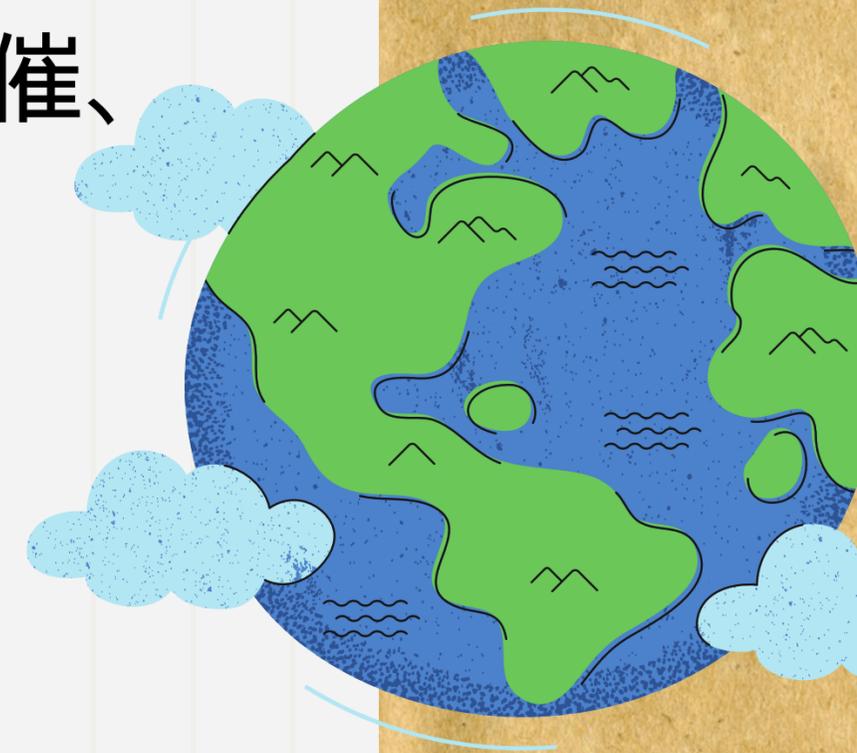
「若い人達が飯田市の未来を考えてくれることはとても嬉しい。
提言に関しては何らかの形で
実現出来るよう対応していく」



今までの探究を振り返って



- 幅広い世代の人と出会うことができ、大人たちの考えが聞けてよかった
- ワークショップや科学工作のイベントの主催、アンケートの実施など色々な経験ができた
- ワークショップなどのイベントを通して探究テーマを達成することができた



ご清聴ありがとうございました
ございました

